PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

2002-329497

(43) Date of publication of application: 15.11.2002

(51)Int.CI.

4/62 HO1M CO8F 2/22

(21)Application number: 2001-133103

(71)Applicant: NIPPON A & L KK

(22)Date of filing:

27.04.2001

(72)Inventor: NAITO HITOSHI

NISHIOKA TOSHITAKA

ITAGAKI MAKOTO

(54) BINDER FOR NEGATIVE ELECTRODE OF SECONDARY BATTERY

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a binder for a negative electrode of a secondary battery, which permits providing a negative electrode for a nickel hydrogen secondary battery good in adhesion of a negative electrode mix to a current collector and excellent in electrolyte resistance and providing a secondary battery excellent in cycle properties upon assembly of the battery.

SOLUTION: The binder for a negative electrode of a nickel-hydrogen secondary battery is composed of a copolymer latex obtained by emulsion- polymerizing 100 pts.wt. in total of a monomer mixture composed of 20-60 wt.% of an aliphatic conjugated diene monomer, 1-10 wt.% of an ethylenically unsaturated carboxylic acid monomer and 30-79 wt.% of any other monomer copolymerizable therewith in the presence of a 4-methylcyclohexene and 1- methylcyclohexene and having an unsaturated bond in its ring.

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号 特開2002-329497 (P2002-329497A)

(43)公開日 平成14年11月15日(2002.11.15)

(51) Int.Cl.7

識別記号

FΙ

テーマコード(参考)

H01M. 4/62 C08F 2/22

H 0 1 M 4/62

C 4J011

C08F 2/22

5H050

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 6 頁)

(21)出願番号

(22)出顧日

特願2001-133103(P2001-133103)

(71)出顧人 399034220

07220

707 1-1

平成13年4月27日(2001.4.27)

日本エイアンドエル株式会社

大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号

(72)発明者 内藤 等

大阪市此花区春日出中3丁目1番98号 日

本エイアンドエル株式会社内

(72)発明者 西岡 利恭

大阪市此花区春日出中3丁目1番98号 日

本エイアンドエル株式会社内

(72)発明者 板垣 誠

愛媛県新居浜市菊本町2丁目10番2号 日

本エイアンドエル株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 二次電池負極用バインダー

(57)【要約】

【課題】 負極合剤の集電体への付着が良好でかつ耐電解液性に優れたニッケル水素二次電池負極が得られ、また電池に組み立てた際にサイクル性に優れた二次電池を得ることの可能な二次電池負極用バインダーの提供。

【解決手段】 脂肪族共役ジエン系単量体20~60重量%、エチレン系不飽和カルボン酸単量体1~10重量%およびこれらと共重合可能な他の単量体30~79重量%からなる単量体合計100重量部を、シクロペンテン、シクロペキセン、シクロペプテン、4ーメチルシクロペキセン、1ーメチルシクロペキセンから選ばれた環内に不飽和結合を1つ有する環状の不飽和炭化水素の存在下で乳化重合して得られた共重合体ラテックスからなるニッケル水素二次電池負極用バインダー。

【特許請求の範囲】

【請求項1】脂肪族共役ジエン系単量体20~60重量%、エチレン系不飽和カルボン酸単量体1~10重量%およびこれらと共重合可能な他の単量体30~79重量%からなる単量体合計100重量部を、シクロペンテン、シクロヘキセン、シクロヘプテン、4ーメチルシクロヘキセン、1ーメチルシクロヘキセンから選ばれた環内に不飽和結合を1つ有する環状の不飽和炭化水素の存在下で乳化重合して得られた共重合体ラテックスからなることを特徴とするニッケル水素二次電池負極用バイン 10 ダー。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明はニッケル水素二次電 池負極用バインダーに関する。

[0002]

【従来の技術】ニッケル水素二次電池は同一サイズのニッケルカドミウム二次電池と比較して、カドミウムを使用しない点で環境にクリーンであり、さらに放電容量が大きく電子機器をより長時間駆動させることが可能な優20れた特徴を有している。またニッケル水素二次電池はリチウムイオン二次電池と比較した場合は、重量エネルギー密度では劣るものの、体積エネルギー密度はほぼ同等であり、安価に供給されることから、近年の小型携帯電子機器等の駆動電源として重要性が増している。

【0003】ニッケル水素二次電池はニッケル化合物を 正極活物質とした正極と、負極活物質である水素を低圧 力において可逆的に吸蔵・放出することが可能な水素吸 蔵合金を主とする負極から構成されている。

【0004】このニッケル水素二次電池の負極の製造方 30 法としては、これまで以下のものが提案されている。

- (1) 水素吸蔵合金粉末を導電性粉末とともに焼結して 電極とする方法。
- (2) 水素吸蔵合金粉末をバインダーを使用せずに三次 元金属多孔体に充填して電極とする方法。
- (3) 水素吸蔵合金粉末をバインダーによって導電性支持体に保持させて電極とする方法。

これらの方法の中で(1)の焼結方法は焼結時に水素吸蔵合金表面が酸化されて不導体化し、電極の導電率が下がり、放電電圧の低下を招くという不都合がある。また、(2)の方法は、三次元金属多孔体が高価であることに加えて、電極容量に寄与しない部分が多くなるため電池容量を十分大きく出来ないという問題がある。上述した中ではバインダーを用いる(3)の方法が、電極性能、製造作業性およびコスト面で優れた負極の製造方法である。

【0005】バインダーを用いる(3)の方法については、はじめに所定粒径の水素吸蔵合金粉末と、所定粒径の導電剤粉末、所定量の増粘剤水溶液、バインダー、他添加剤等を加えて全体を混練して合剤スラリーを調製す 50

る。その後この合剤スラリーを導電性支持体に塗着したのち乾燥し、更に例えばロール圧延を行って所定の厚みに調整して、所定形状に裁断することにより水素吸蔵合金粉末を含む合剤を担持したニッケル水素二次電池負極(水素吸蔵合金電極)が製造されている。このなかで、バインダーは最終的な電極の性能に大きな影響を与えている。

【0006】このバインダーについては、従来はポリフッ化ビニリデン(PVDF)をはじめとしたフッ素系のポリマーが用いられていたが、フッ素系ポリマーに替わってスチレンーブタジエン系共重合ラテックス(以下、共重合体ラテックスという)を用いることにより、二次電池の放置中の自己放電を抑制しオープン電圧の低下が抑止される(特開平10-247492号公報)など、本分野において共重合体ラテックスは優れた性能を発揮することが知られている。

[0007]

【発明が解決しようとする課題】ニッケル水素二次電池の負極製造に際して水素吸蔵合金粉末をバインダーによって導電性支持体に保持させて電極を製造する場合は、水素吸蔵合金粉末を導電性支持体に強固に保持させる必要がある。共重合体ラテックスはこれまでのフッ素系ポリマーと比較して水素吸蔵合金粉末、導電剤粉末や集電体などの負極材料と優れた接着性能を示すが、近年の電池製造技術、周辺材料の進歩を鑑みると、共重合体ラテックスの更なる性能向上によるニッケル水素二次電池負極性能の向上が期待されていた。

[0008]

【課題を解決するための手段】かかる課題を解決すべく 鋭意検討した結果、特定の共重合体ラテックスをバイン ダーとして使用することにより、上記課題が解決される ことを見出して本発明を完成するに至った。すなわち、 本発明は脂肪族共役ジエン系単量体20~60重量%、 エチレン系不飽和カルボン酸単量体1~10重量%およびこれらと共重合可能な他の単量体30~79重量%からなる単量体合計100重量部を、シクロペンテン、シクロヘキセン、シクロヘプテン、4ーメチルシクロヘキセン、1ーメチルシクロヘキセンから選ばれた環内に不飽和結合を1つ有する環状の不飽和炭化水素の存在下で 乳化重合して得られた共重合体ラテックスからなること を特徴とするニッケル水素二次電池負極用バインダーを 提供するものである。

[0009]

【発明の実施の形態】以下、本発明について更に詳しく 説明する。

【0010】本発明における共重合体ラテックスは、脂肪族共役ジエン系単量体、エチレン性不飽和カルボン酸単量体およびこれらと共重合可能な他の単量体を乳化重合して得られるものである。

【0011】脂肪族共役ジエン系単量体としては、1,

 $3-\overline{\jmath}$ 9 $\overline{\jmath}$ 2 $-\overline{\jmath}$ 9 $\overline{\jmath}$ 2 $-\overline{\jmath}$ 9 $\overline{\jmath}$ 2 $\overline{\jmath$ 2, 3-3+3+1 = 1, 3-7+3+1 = 21, 3-ブタジエン、置換直鎖共役ペンタジエン類、置 換および側鎖共役へキサジエン類などが挙げられ、1種 または2種以上用いることができる。特に1,3-ブタ ジエンが好ましい。

【0012】エチレン性不飽和カルボン酸単量体として は、アクリル酸、メタクリル酸、クロトン酸、マレイン 酸、フマール酸、イタコン酸などのモノまたはジカルボ ン酸(無水物)等が挙げられ、1種または2種以上用い 10 ることができる。

【0013】これらと共重合可能な他の単量体として は、芳香族ビニル系単量体、シアン化ビニル系単量体、 不飽和カルボン酸アルキルエステル単量体、ヒドロキシ アルキル基を含有する不飽和単量体、不飽和カルボン酸 アミド単量体等が挙げられ、これらは1種または2種以 上用いることができる。

【0014】芳香族ビニル系単量体としては、スチレ ン、 α - メチルスチレン、メチル α - メチルスチレン、 ビニルトルエンおよびジビニルベンゼン等が挙げられ、 1種または2種以上用いることができる。特にスチレン が好ましい。

【0015】シアン化ビニル系単量体としては、アクリ ロニトリル、メタクリロニトリル、αークロルアクリロ ニトリル、α-エチルアクリロニトリルなどが挙げら れ、1種または2種以上用いることができる。特にアク リロニトリル、メタクリロニトリルが好ましい。

【0016】不飽和カルボン酸アルキルエステル単量体 としては、メチルアクリレート、メチルメタクリレー ト、エチルアクリレート、エチルメタクリレート、ブチ 30 ルアクリレート、グリシジルメタクリレート、ジメチル フマレート、ジエチルフマレート、ジメチルマレエー ト、ジエチルマレエート、ジメチルイタコネート、モノ メチルフマレート、モノエチルフマレート、2-エチル ヘキシルアクリレート等が挙げられ、1種または2種以 上用いることができる。特にメチルメタクリレートが好 ましい。

【0017】ヒドロキシアルキル基を含有する不飽和単 量体としては、 β -ヒドロキシエチルアクリレート、 β ーヒドロキシエチルメタクリレート、ヒドロキシプロピ 40 ルアクリレート、ヒドロキシプロピルメタクリレート、 ヒドロキシブチルアクリレート、ヒドロキシブチルメタ クリレート、3-クロロ-2-ヒドロキシプロピルメタ クリレート、ジー (エチレングリコール) マレエート、 ジー (エチレングリコール) イタコネート、2ーヒドロ キシエチルマレエート、ビス (2-ヒドロキシエチル) マレエート、2ーヒドロキシエチルメチルフマレートな どが挙げられ、1種または2種以上用いることができ る。特にβーヒドロキシエチルアクリレートが好まし ١١°

【0018】不飽和カルボン酸アミド単量体としては、 アクリルアミド、メタクリルアミド、Nーメチロールア クリルアミド、N-メチロールメタクリルアミド、N, N-ジメチルアクリルアミド等が挙げられ、1種または 2種以上用いることができる。特にアクリルアミドが好 ましい。

【0019】さらに、上記単量体の他に、エチレン、プ ロピレン、酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル、塩化ビニ ル、塩化ビニリデン等、通常の乳化重合において使用さ れる単量体は何れも使用可能である。

【0020】上記重合性単量体組成は、脂肪族共役ジエ ン系単量体20~60重量%、エチレン系不飽和カルボ ン酸単量体1~10重量%およびこれらと共重合可能な 他の単量体30~79重量%からなる。

【0021】脂肪族共役ジエン系単量体が20重量%未 満では本発明の共重合体ラテックスをバインダーとして 含む合剤ペーストを集電体に塗布した際に合剤ペースト と集電体間での十分な接着性が得られず、また60重量 %を超えると合剤ペーストを集電体に塗布して電池負極 20 を製造した際に耐電解液性が低下する問題が見られるの で好ましくない。好ましくは30~55重量%である。 【0022】エチレン系不飽和カルボン酸単量体が1重 量%未満では共重合体ラテックス自身および共重合体ラ テックスをバインダーとして含む合剤ペーストの安定性

が劣る可能性があり、また10重量%を超えるとラテッ クスの粘度が高くなり、共重合体ラテックス自身の取り 扱い上の問題を生じる可能性があるため好ましくない。 好ましくは1~7重量%である。

【0023】共重合可能な他の単量体が30重量%未満 では本発明の共重合体ラテックスをバインダーとして含 む合剤ペーストを集電体に塗布して電池負極を製造した 際に耐電解液性が低下し、また79重量%を超えると合 剤ペーストを集電体に塗布した際に水素吸蔵合金、導電 剤、集電体間との接着性が劣り好ましくない。好ましく は38~69重量%である。

【0024】本発明においては、上記単量体を乳化重合 するに際し、シクロペンテン、シクロヘキセン、シクロ ヘプテン、4-メチルシクロヘキセン、1-メチルシク ロヘキセンから選ばれた環内に不飽和結合を1つ有する 環状の不飽和炭化水素乳化重合の存在下で乳化重合する ことが必要ある。また、該不飽和炭化水素の使用割合に ついては特に制限はないが、上記単量体合計100重量 部に対して0.1~50重量部である。0.1重量部未 満では本発明効果の発現が不十分であり、また50重量 部を超えると未反応物として残留する該化合物の量も相 対的に増加し、その回収にかかるエネルギーが多大にな るため好ましくない。好ましくは0.5~30重量部で ある。

【0025】また、本発明においては必要に応じて従来 公知の連鎖移動剤、例えばnーヘキシルメルカプタン、

n-オクチルメルカプタン、t-オクチルメルカプタ ン、nードデシルメルカプタン、tードデシルメルカプ タン、n-ステアリルメルカプタンなどのアルキルメル カプタン、ジメチルキサントゲンジサルファイド、ジイ ソプロピルキサントゲンジサルファイドなどのキサント ゲン化合物、αーメチルスチレンダイマー、ターピノレ ンや、テトラメチルチウラムジスルフィド、テトラエチ ルチウラムジスルフィド、テトラメチルチウラムモノス ルフィド等のチウラム系化合物、2、6-ジーt-ブチ ルー4ーメチルフェノール、スチレン化フェノール等の 10 フェノール系化合物、アリルアルコール等のアリル化合 物、ジクロルメタン、ジブロモメタン、四臭化炭素等の ハロゲン化炭化水素化合物、αーベンジルオキシスチレ ン、 α -ベンジルオキシアクリロニトリル、 α -ベンジ ルオキシアクリルアミド等のビニルエーテル、トリフェ ニルエタン、ペンタフェニルエタン、アクロレイン、メ タアクロレイン、αーベンジロキシスチレン、チオグリ コール酸、チオリンゴ酸、2-エチルヘキシルチオグリ コレート等の1種又は2種以上を使用することもでき る。これら連鎖移動剤の使用量については何ら制限はな く、共重合体ラテックスに求められる性能に応じて適宜 調整することができるが、好ましくは単量体混合物10 0 重量部に対して0.05~10重量部である。

【0026】本発明において、共重合体ラテックスを乳化重合して得る際に、通常の乳化剤が用いられる。乳化剤としては高級アルコールの硫酸エステル塩、アルキルベンゼンスルホン酸塩、アルキルジフェニルエーテルスルホン酸塩、脂肪族スルホン酸塩、脂肪族カルボン酸塩、非イオン性界面活性剤の硫酸エステル塩等のアニオン性界面活性剤あるいはポリエチレングリコールのアル30キルエステル型、アルキルフェニルエーテル型、アルキルエーテル型等のノニオン性界面活性剤が1種又は2種以上で用いられる。

【0027】また、本発明においては重合開始剤として、過硫酸カリウム、過硫酸アンモニウム、過硫酸ナトリウム等の水溶性開始剤、レドックス系開始剤あるいは、過酸化ベンゾイル等の油溶性開始剤が使用できる。【0028】共重合体ラテックスの重合にあたっては、単量体ならびにその他の成分の添加方法については特に制限するものではなく、一括添加方法、分割添加方法、連続添加方法の何れでも採用することができ、また、本発明においては、一段重合、二段重合又は多段階重合等何れも採用することができる。

【0029】また、上記共重合体ラテックスの数平均粒子径には特に制限はないが、好ましくは50~250nm、好ましくは70~200mである。

【0030】ニッケル水素二次電池の負極製造に際して、本発明のバインダーともに使用される水素吸蔵合金については、ニッケル水素二次電池用として用いられるものであれば特に制限無く使用可能である。水素吸蔵合 50

金の具体例を挙げるとLaNis 系合金、MmNis 系合金 (Mm はミッシュメタルの略)、ZrNiz 系合金、TiNi系合金などである。これら水素吸蔵合金は、コスト低減、酸化防止、微粉化防止、サイクル寿命改善、耐食性向上、耐アルカリ腐食性改善、初期容量改善、ガス発生抑制、水素解離平衡圧低下、高容量化、高寿命化などを目的として主合金成分金属の一部を他金属原子へ置換、合金の表面処理などの手法とあわせて、1種あるいは2種以上を混合して使用することができる。水素吸蔵合金の形状としては、通常機械的に粉砕、或いは水素ガスの吸蔵・放出により微紛化した平均粒径10~50μm程度の粉末が用いられる

【0031】また、ニッケル水素二次電池の負極製造に際して、本発明のバインダーとともに使用される他の導電剤、集電体、増粘剤、搬水剤、他添加剤などの合剤・負極材料についても、ニッケル水素二次電池用として用いられるものであれば特に制限無く使用可能である。

【0032】本発明の共重合体ラテックス、水素吸蔵合金粉末、導電剤粉末、増粘剤、撥水剤、他添加剤からなる負極用合剤スラリーを集電体に塗布する方法としてはリバースロール法、コンマバー法、グラビヤ法、エアーナイフ法など任意のコーターヘッドを用いることができ、また乾燥方法としては放置乾燥や、送風乾燥機、温風乾燥機、赤外線加熱機、遠赤外線加熱機などが使用できる。

【0033】さらに、本発明のバインダーを用いて作った負極を用いてニッケル水素二次電池を製造する際に使用される正極活物質、正極用バインダー、集電体、セパレーター、電解液、端子、絶縁体、電池容器等については既存のものが特に制限無く使用可能である。また最終的な電池形態についても、制限無く円筒形ニッケル水素二次電池、角形ニッケル水素二次電池のどちらにも使用することができる。さらに、本発明の共重合体ラテックスを正極用バインダーとして使用することも可能である。

[0034]

【実施例】以下、実施例を挙げ本発明をさらに具体的に 説明するが、本発明はその要旨を変更しない限り、これ らの実施例に限定されるものではない。なお実施例中、 割合を示す部および%は重量基準によるものである。ま た実施例における諸物性の評価は次の方法に拠った。

【0035】数平均粒子径測定

共重合体ラテックスの数平均粒子径は動的光散乱法により測定した。尚、測定に際しては、LPA-3000/ 3100(大塚電子製)を使用した。

【0036】<u>共重合体ラテックスの作成</u>

耐圧性の重合反応機に、純水125部、ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム0.8部、過硫酸カリウム1.2部を仕込み、十分攪拌した後、表1に示す1段目の各単量体およびシクロヘキセン6部、αーメチルスチレン

7

ダイマー0.3 部、t-ドデシルメルカプタン0.2部を加えて75℃で重合を開始した。1.5時間後に重合温度を70℃に下げて保ち、表1に示す2段目の各単量体およびシクロヘキセン4部、過硫酸カリウム0.5部、純水10部を2時間にわたって連続的に添加した後、表1に示す3段目の各単量体及び純水5部を4時間にわたって連続的に添加した。さらに温度を73℃に上げて5時間保った後、重合を終了した。次いで、共重合体ラテックスを苛性ソーダ水溶液でp Hを約7に調整した後、水蒸気蒸留により未反応単量体および他の低沸点 10 化合物を除去し、共重合体ラテックス(a)を得た。また、表1に示す条件を変更する以外は共重合体ラテックス(b)~(g)を得た。尚、共重合体ラテックス(a)、

(b) 及び(g) は3段重合にて、共重合体ラテックス(c)、(d)、(e) および(f) は2段重合により作成した。

【0037】合剤スラリーの作成

比較例1~4の合剤スラリーを作成した。

水素吸蔵合金粉末LaNi4.5A10.5 100部と導電剤カーボニルニッケル5部を使用し増粘剤としてカルボキシメチル 20 セルロースを2重量部、共重合体ラテックス (a) 5部とを全固形分が50%となるように適量の水を加えて混練し表1記載の実施例1の負極用合剤スラリーを調製した。同様にして、表1記載された共重合体ラテックス (b) \sim (c) を用いて実施例2 \sim 3の電池電極用組成物を、また共重合体ラテックス (d) \sim (g) を用いて

【0038】 <u>[実施例1~3、比較例1~4</u>] 各々の合 剤スラリーを集電体となる厚さ 15μ m、開口率38%の軟鉄製ニッケルメッキパンチングシートの両面に塗布 30し、120 で 5 分乾燥し、熱プレスで圧縮成型して実施例1~3 および、比較例1~4 の負極をそれぞれ作成*

* した。これらの評価内容については以下のとおりである。また、評価結果については表1に示した。

【0039】<u>結着性</u>

上記負極の表面にナイフを用いて、合剤層から集電体に達する深さまでの切り込みを2mm間隔で縦横それぞれ6本入れて碁盤目の切り込みを作った。この切り込みに粘着テープを貼り付けて直ちに引き剥がし、活物質の脱落の程度を目視判定で5点(脱落なし)から1点(完全に脱落)として評価した。

0 【0040】耐電解液性

上記と同様にして碁盤目の切り込みを入れた負極を、7NのKOHと1NのLiOHからなる40 Cの電解液中に12時間浸けて取り出し、負極表面の状態を目視判定で5点(変化なし)から1点(完全に脱落)として評価した。

【0041】<u>サイクル性</u>

これらの実施例1~3、比較例1~4の各負極を、活物質に水酸化ニッケル粉末を用いた非焼結式ニッケル正極およびスルホン化処理したポリプロピレンの不織布からなるセパレータと組合せ、捲回して巻回体とし、この巻回体を負極端子を兼ねた円筒型電池缶に収納し、電池缶と負極、正極端子と正極をリード端子により接続し、電池缶内に7NのKOHと1NのLiOHからなる電解液を満たした後、正極端子を備えた電池蓋をガスケットを介してかしめて円筒型電池を作成した。充放電率0.2℃で充放電を10回反復して活性化処理を行った後、1℃の定電流で1.5時間充電し、1時間休止後、1℃の定電流で1.5時間充電し、1時間休止後、1℃の定電流で1.0Vまで放電する充放電サイクルを繰返して放電容量が初期の60%となった時点のサイクル数を計測した。

【0042】 【表1】

1	學數	実施例1 フテックス (a)			実施例2 ラテックス (b)			東放倒3 ラテックス (e)			比較値(ラテックス(d)			比性例2 ラテックス (e)			比較何さ ラテックス(f)			北端側4 ラテックス(g)			
		1歳日	北龍台	お取扱	1 開催	2歳質	3 激出	122	主政協	322	1機能	2 10 15	3最日	1表表	2表表	2 教育	188	284	320	1.82	皇教書	38	
ブラジエン		4	10	28	1 5	15	20	4	31		2	15		12	50		8	22	1	7	14	16	
メチレン *		1	1	18	4		14	4	32		6	48		a	16	l	l s	37	i i	à	15	17	
メタクリングテル		10	a	7			19	4	8	l i	4	6		lã		l	اةا	10	Į	٠.	3	13	
アクリロニトリル		8	10		ı		1	2	13		ż	13		1 2	a		1 '		i I		1 -		
アクリルアミド							-	1.6			1.0	1	-	1.0	Ť			_			 	<u> </u>	
メタクリルフモド			0.5	1.0	1.5	1.						ı								1.0	ı	ł	
アクリル催みときロキシエテル					0.5	1]				i	1				1.6		i	1.5	ı	1	
イタコン酸		1.0	1.5	Ι.	1.5	l	1	2.0			20		1	20				D. 8		""	0.5	1.0	
アクリル酸	1	1	" "	ļ	1.0	0.6	l		1.0	1		1.0	1		1.0		1.4	1.5	l		٧.٥	1.0	
フマール物		1.6		1		١						". "			1.0			1. 4		1.5	i		
シクロベンテン	8	,,,,		_	6.0		-				10.0			-						1.8		⊢	
シクロヘキセン	1 -	8.0	4.0	1	~ "	1	i				14.4	l	!	10.6	5.'0								
シクロヘブテン		J ~ ~ .	7.0	i	ı	I	1	4.0	7.8			İ	ł	10.0	2.0				1 1			ł	
シクロヘキサン	8			l		ı	1	•	7.0				1				6.0		l i		l	l	
LEE	I #		1	l				l		l i		i	ì				5.0		1		1	ı	
モーメナルステレンダイマー	*	0.8	├	├─	├	├		0.2	-	-i			<u> </u>	0.8			0.3		-	10.0	10.0	⊢	
t ードデシルメルカプタン		a e	ı		ł	l	l i	u.z	0.1			0.1		0.8			2.3				l		
nーオクテルメルなプタン			ı		i	Q.Z			ω,			w. 1	1		t. 3					0.2	0.3		
後衛服力リウム	1	1.2	0.5	-	6.9	01	0.5	1.0	0.4		1.0	0.4		1.0	0.4		9,5	0.6		0.7	0.3	0.3	
ドゲシルベンゼンスルホンモナトリウム		0.8	}			0.1		0.7			0.7	***		0.7	٧			0.2			0.2	9.8	
##	. 4	125	10	5	110	5	5	130	3		140	5	-	140	5			10	-		0.2		
I e I e	÷	75	70	73	72	75	70	74	72		74	72	-	74	72		120		\vdash	180	-	5	
工业内 版	100	1.5	2	l "i l	1.5	7	73	1.5	12		2	5		2	5		72	75	1 1	**	69	72.	
A dat	₹	-1.0	77		-1.9	73		1.2	70		-	72	ــــــــــــــــــــــــــــــــــــــ		72	_	1,8	78		1.5	<u>_</u>	. 4	
基成時間	-		.5			~3			5			8			12				- 1		78 6		
秋子差	-	_	ŭ			172			132	-		120	_		126			5 ·	-				
が (種) ローロ (金)		4.5			4.8			4.7			1.8		1, 5		165 3.2		. 170						
開発性 (数) 5~C (余)	-	1 7.8			5			13											2.5				
サイクを性	-	605				680						4.6						8			2.5		
7.1.64/E									590			. 263			230			202			195		

[0043]

【発明の効果】本発明の共重合体ラテックスをニッケル 水素二次電池負極用バインダーとして使用することによ り、負極合剤の集電体への付着が良好でかつ耐電解液性 に優れたニッケル水素二次電池負極が得られ、また電池 に組み立てた際にサイクル性に優れた二次電池を得るこ とができるものである。 フロントページの続き

F ターム(参考) 4J011 AA05 KA14 5H050 AA07 BA14 CA03 CB16 DA03 DA11 EA28 GA11 HA01